

## ■看護部記録委員会

本委員会は看護記録の質の向上を図り、看護ケアへ反映させることを目的に運営されている。看護記録や看護計画等の監査、記録類の検討を行い看護記録類の整備、作成等を行っている。平成19年度は、一般病棟用と長期入院用の2種類の温度板を作成し、看護部全体での温度板の統一を行った。また記録監査方法や看護記録内容の統一をしていくため、記録監査用紙の見直し、症状記載基準・略語集の大幅改定を行った。患者参加型・参画型看護計画については、看護計画の一部提示のみ各病棟実施できた。

### 平成19年度目標・評価

1. 患者・家族にとってわかりやすい説明・ケアの提示を行えるよう参加型看護計画に取り組む。

- ① 全病棟が入院患者全員に看護計画の一部提示を実施する。
- ② 参加型看護計画の参画を全病棟で3事例以上実施する。

#### 【評価】

上半期は、7～9階での共有できるフォーマットを作成し、提示方法の統一はできた。また、参画事例は、7階4事例8階2事例行われており、目標は達成とする。下半期は、5・7～9階での看護計画の一部提示は、実施できた。参画事例は7階8事例8階5事例行われており、目標は一部達成とする。長期療養患者の一部提示、参画事例については、どの時期まで継続して行っていくかなどの意見も出ており、来年度の課題とする。

2. 看護記録に関する標準化を行う。

- ① 温度板の使用方法を統一する。
- ② 看護ケアについて、ケア内容や実施者を明確にする。
- ③ 記録監査の継続・検討

#### 【評価】

上半期は、各階独自にケアシートを活用しケア実施者を明確にしていたが、6階のみケアシートがなく、ケア実施者の記載がないことが判明した。そのため5階と同様の温度板を使用することで、ケア実施者の明確化ができた。そのため一般病棟用、5・6階用2種類ではあるが温度板の統一はでき、①②ともに達成した。各病棟、記録監査は定期的に実施されており、患者参加型プランの監査も含めた記録監査表の改定を行った。また、症状記載基準、略語集の大幅な改定も行った。下半期は、適宜、症状記載基準の追加を行った。一般病棟用温度板に担当看護師のサインがなかったため、追加・修正した。長期入院患者用の記録監査用紙の作成は、5・6階から現在の監査用紙の使用期間延長の希望があり、来年度の課題とする。

#### 研修参加

「今問われる看護記録」 11/8 北海道看護協会主催 7階 大西 8階 田之岡

### 今後の展望

一般病棟用と長期入院用の記録類の統一をし、病院機能評価Ver. 5に対応する看護記録の整備をしていく予定である。また、全患者対象に患者参加型看護計画・参画型看護計画を浸透できるようシステムの構築をしていきたい。

文責 佐藤裕美子